

琴瑟備

特別
A5
6673
87
早稲田大学図書館



安永丁酉



春興

備岡山連中

ちりびつてとも葉はむらじ
あまのつらき春

一日居其磯

をわく真似

出村りも酒多き世めて輪月	相仙
梅うらや起さず口きり二日酔	李川
何きかまも似あひ柳引八	梅十
凍解や草鞋乃いふ後すい白	孤葉
心あせ侍しよこよけ道長のお	柳七
凍とけやけしもけいふをけは	かよ
とあくや先しそけき経ひま	了月
ととふ日やさる梅れうそらま	と光
枝ふすこ録もみ林さそは春の風	せ貞
駒ふや田んぼそく半北路こも	三淵

赤坂地下鉄駅よりくや梅の丘 百葉
あぬふよそ片の揚子水にわやを在 巴ト
おんえうりちちをとててくちの夜 以文
よきま路より一月は試衣はにひり 孤松
心ゆくぬねりよるの夜睡月が 水之

短歌行

持統天皇の御宇よりくやく柳の丘 松字

ふかふかおのれをくやく月の丘 千尋
おんまことまの文入おのれをくやく 去後
ふかふかおのれをくやく 水之

十四日よりふかふかやく 十五日 孤松
あふかふかおのれをくやく 李川
温るふかふかおのれをくやく 旭仙
おんまことまの文入おのれをくやく 水之
ふかふかおのれをくやく 三子
いんちゅうぬいやく 三子
素讀よも交りてふかふか 孤松
おんまことまの文入おのれをくやく 水之
今乃世はこらくをくやく 三子
おんまことまの文入おのれをくやく 三子
おんまことまの文入おのれをくやく 三子
おんまことまの文入おのれをくやく 三子
おんまことまの文入おのれをくやく 三子

試之のふらひるを頼、自しこ 以文

天林樹北をりしあふやう 梅十

ひげふふ小晴てえきな月の影 之

舞ふよくに麻鈴うね 宇

ゆるり林のまわりと乳はかゝり帯 破

一町けいのるきか板より 板

あやうな風もきせぬおひらて 川

とりのく松ぬふしやあまき 筆

森の度

くらゐもや取忘脱、うけ中 松後

朝多葉古

京橋後反

